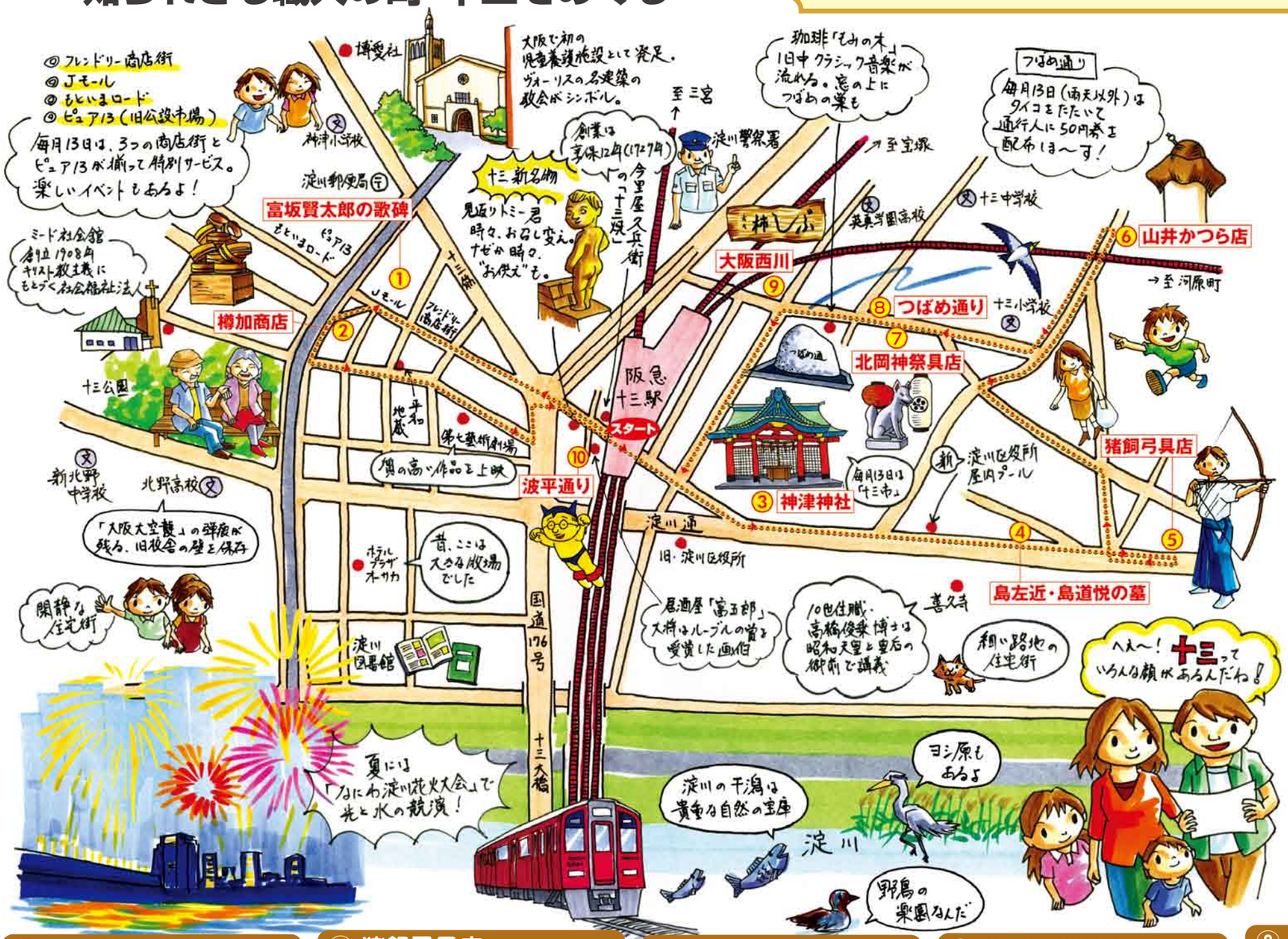
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

淀川+下町×ものづくり＝十三！

～知られざる職人の町・十三をめぐる～

淀川区の十三といえば、キタやミナミと並び称される歓楽街…だけではありません！ いつもの横丁を曲がってみれば、こんなところに熟練・凄腕の職人さんが！ 夜の帳に薄ぼんやりの赤提灯ではなく、きらりと光る名人芸で、あなたを酔わせます。



① 富坂賢太郎歌碑（長安寺境内）

古着商を営みながら歌に生きた富坂賢太郎（1891～1962）の歌碑（1968年「あけび歌会」建立）です。兵庫県出石郡出身で昭和2年（1927）に、十三で古着商を起こしました。家庭も仕事も苦労の連続、空襲で店が全焼、本人も大晦日の夜に商売で奔走中に交通事故で亡くなるという薄幸の人生でしたが、どんなことがあっても絶望せず、だまされても人を信じたという賢太郎の歌は格調高く、訪れる人の心に灯をともしてくれます。
「扉をあけて　阿弥陀如来も　みそなはせ　うき世の春の　花のさかりを」

② 樽加商店

時代劇の１シーンのような佇まいで、店先には桶板などが天日干しされ、ショーウィンドウに、桶、櫃、半切りなどが並んでいます。「１枚１枚の木を、カマ（木の定規）にあてて、外の光にすかして勾配がピッシリと合うまで削っていく」とは、この道50年以上の2代目店主・上野義昭さん。さまざまな種類のカンナやノコギリが約100種。「長いこと安心して使うてもらいたい」と竹クギも手製、接着の糊は化学糊ではなく、ご飯を練って作ります。

③ 神津（かみつ）神社

江戸時代には「小島の八幡神社」と呼ばれていた十三の氏神さん。中津川（新淀川）のほとりは何度となく合戦場となったので、弓矢の神様・八幡大菩薩を祀って戦勝祈願したと言われています。戦後は商工業が盛んになってきたので、今宮戎神社から分霊をいただいて「十三（とみ）戎」を合祀しました。また毎月13日には地元のタウン誌『ザ・淀川』が関わる「十三市（じゅうそういち）」と「よどがわ川柳」が行われます。野菜、骨董品、雑貨など、お買得品がいっぱい。（十三市は８月13日と雨天時は休み）。

④ 島左近、島道悦の墓

関ヶ原の合戦で石田三成の軍師として活躍し、あわや徳川家康の本陣に迫るかと思われた瞬間に、小早川秀秋の裏切りで討死にした島左近の墓です。左近は合戦直前に2人の娘を乳母の知人のいる木寺村（現・木川東）に隠し、娘のひとりは大坂天満宮へ嫁ぎ、もうひとりは土地の有力者と結婚して、中津川治水事業に命をかけた島道悦の母になりました。墓は子孫が建立したものです。

⑤ 猪飼弓具店

昭和16年（1941）に戦国時代からの京弓の伝統を継ぐ19代柴田勘十郎に弟子入りして、滋賀県で弓師として独立した猪飼秀重さん(2010年現在で93歳！)が、昭和32年（1957）に十三で創業しました。大阪唯一の弓具専門店で社員6名、家族を含むと10名が弓道有段者です。「弓道に関することなら何でも聞いてや」(英一社長)と高校生からシルバー世代まで、大阪府一円の弓道愛好家が出入りしています。

⑥ 山井かつら店

昭和37年（1962）開業。大衆演劇の役者や舞踊の師匠などのかつらを作る職人・山井豊さんのお店です。注文があると、かつら合わせに出かけ、注文主の頭から台がねで寸法を取り、刳り（はえぎわ）を決めて、持ち帰って毛を植え付けたり、張ったりと、いくつもの工程があります。すべて手作業。修理や結い直し、貸し出しなども行っています。

⑦ 北岡神祭具店

神棚から社殿まで「手のひらに乗るようなものから、体が入るようなものまで作っています」と北岡和彦さん。戦後の混乱期に工業高校に通いながらお父さんの仕事を手伝って、この道60年のベテラン宮師です。妻のカヨさんを秘書役に、神鏡台、ぼんぼり、燈台、玉串筒、神棚、灯籠、手水舎、地蔵堂、大鳥居など、製図から細部の彫刻まで、すべて一人で手がけています。

⑧ つばめ通り（十三東本町商店街）

朝夕は通学路、昼は主婦の井戸端会議で賑わうのが「つばめ通り」こと十三東本町商店街。米屋、果物屋、酒屋、布団屋、喫茶店、古本屋、貸スペースなど、昭和30年代の佇まいと空気感が残っています。毎年、南国からツバメが帰ってきてヒナを生み育て、また巣立っていくので、この愛称がつきました。春には地元のお医者さんが作った「つばめのピーチャン」の歌が流れ、毎月13日は「十三の日」で大売出しも行っています。

⑨（株）大阪西川

元禄時代に京都伏見で創業。「大正末期、祖父の代に十三に店を構えました」（現取締役社長・西川道雄さん、妻・雅子さん）という大阪府内唯一の柿渋店です。「柿渋」（かきしぶ）とは、渋柿の天然果汁。古来、民間薬や天然塗料、酒類の清澄剤、防虫・防水・防腐剤など、さまざまな用途に使われてきました。愛媛、岐阜、京都などで渋柿を採取、搾汁して自社蔵で何年も発酵・熟成させると、琥珀色の上質な柿渋が誕生します。天然のポリフェノールが豊富で、近年は健康飲料としても注目されています。また柿渋染めの手作り小物なども好評です。

⑩ 波平通り（十三駅前西商店街）

阪急十三駅西口徒歩8秒（!?）にあるのが、通称「波平通り」で親しまれる十三駅前西商店街。その頭上にそびえるのが「鉄腕アトム」と「波平さん」を合体させたシンボルマーク「鉄腕波平」。かつて十三の露店で人気を呼んだ「鉄腕波平」人形をヒントに、また「手塚治虫は北野高校出身」ということで、商店街が手塚プロ、長谷川町子美術館からOKをもらい、大阪市にも日参して難産の末に生まれました。「波平は、並平。特別の人やない、庶民の並平さんに愛されて、十三の玄関口として、次代に誇れる商店街にしたい」と居酒屋の大将で画家の堀口博信さん。大阪じゅうの並平さんも、サザエさんも、いらっしゃ～い！

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。